

大衆の政治意識に関する一考察 (四)

―特に鹿児島県民の政治意識の地域的諸様相について― (その2)

最勝寺 隼 人

目 次

- 一 ま え が き
- 二 年令層別地域住民の政党支持と政治意識の諸様相
 - (1) 年令層別地域住民の支持政党別政治意識
 - (2) 支持政党別地域住民の年令層別政治意識 (以上本号)
 - (3) 年令層別・性別地域住民の支持政党別政治意識
 - (4) 性別・支持政党別地域住民の年令層別政治意識
 - (5) 年令層別地域住民の性別政治意識
- 三 職業別地域住民の政党支持と政治意識の諸様相
 - (1) 職業別地域住民の支持政党別政治意識
 - (2) 支持政党別地域住民の職業別政治意識

- (3) 職業別・性別地域住民の支持政党別政治意識
 - (4) 性別・支持政党別地域住民の職業別政治意識
 - (5) 職業別地域住民の性別政治意識
- 四 学歴別地域住民の政党支持と政治意識の諸様相
- (1) 学歴別地域住民の支持政党別政治意識
 - (2) 支持政党別地域住民の学歴別政治意識
 - (3) 学歴別・性別地域住民の支持政党別政治意識
 - (4) 性別・支持政党別地域住民の学歴別政治意識
 - (5) 学歴別地域住民の性別政治意識

五
む
す
び

本稿は、その論旨からいえば、本紀要前号（鹿児島大学法文学部紀要法学論集第一号一四〇・一二・三〇一）に発表した拙稿（大衆の政治意識に関する一考察（三））のうち、特に「三 地域住民の政党支持と政治意識の諸様相」の続稿をなすものであるが、ここでは、特に次のような理由によって、別稿の形式で発表することにした。即ち、大衆の政治意識の様相を能う限り多角的に研究し、その実態に接近するために、前掲拙稿においては、地域的環境と当該地域住民の政治意識の關係ならびに地域的環境を異にする住民相互間の政治意識の較差を考察すると共に、政党政治の下では、地域大衆の政党支持の実態を基礎にして政治意識を分析しなければ、彼等の政治意識を科学的に把握し得ないという観点に立って、地域住民がその支持する政党の異なることによって示す政治意識の相異や地域的特色について検討を加え、最後に、地域住民を性別に分け、支持政党を異にする性別の地域住民が、また支持政党を同一にする性別の地域住民が、それぞれどのような政治意識の様相を示すかについて考察したのであるが、この点についての分析は、制限紙数の關係で極めて不本意なものに終わった。しかも、政党政治下の地域大衆の政治意識を精細に究明するために、より重要な意義をもつと思はれる次の諸点についての考察は、紙幅の都合ですべて割愛せざるを得なかったので、むしろ稿を更めて検討することを妥当と考えるからである。

さて、政党政治下の地域大衆の政治意識の具体的な諸様相を精密に究明するために検討を要すると考えられる第一点は、年令層別地域住民の政党支持の実態と政治意識の關係を明かにすることである。そして、そのためには、〔1〕(イ) 支持政党を異にする年令層別地域住民の支持政党別政治意識、(ロ) 支持政党を同一にする地域住民の年令層別政治意識、〔2〕(イ) 支持政党を異にする年令層別・性別地域住民の支持政党別政治意識、(ロ) 支持政党を同一にする性別地域住民の年令層別政治意識、〔3〕 支持政党を同一にする年令層別地域住民の性別政治意識（政治意識の男女比）等を、地域別の年令層別・

性別調査対象者の投票行動の分析結果と地域的環境との関連において検討することが必要であろう。

第二点は、職業別地域住民の政党支持の実態と政治意識の関係を把握することである。そして、そのためには、(1) 支持政党を異にする職業別地域住民の支持政党別政治意識、(2) 支持政党を同一にする地域住民の職業別政治意識、(3) 支持政党を同一にする職業別・性別地域住民の支持政党別政治意識、(4) 支持政党を同一にする性別地域住民の職業別政治意識、(5) 支持政党を同一にする職業別地域住民の性別政治意識(政治意識の男女比)等を、地域別の職業別・性別調査対象者の投票行動の分析結果と地域的環境との関連において検討することが必要であると思はれる。

第三点は、学歴別地域住民の政党支持の実態と政治意識の関係を明確にすることである。そして、そのためには、(1) 支持政党を異にする学歴別地域住民の支持政党別政治意識、(2) 支持政党を同一にする地域住民の学歴別政治意識、(3) 支持政党を異にする学歴別・性別地域住民の支持政党別政治意識、(4) 支持政党を同一にする性別地域住民の学歴別政治意識、(5) 支持政党を同一にする学歴別地域住民の性別政治意識(政治意識の男女比)等を、地域別の学歴別・性別調査対象者の投票行動の分析結果と地域的環境との関連において検討することが必要であろう。

かかる意味において、本稿では右に挙げた諸点について順次考察することにする。

二 年令層別地域住民の政党支持と政治意識の諸様相

地域住民を年令層(二〇才台・三〇才台・四〇才台および五十才以上台)別に分けて、各年令層の地域住民がそれぞれどのような内容の投票行動を示すかを、彼等の政党支持の実態を基礎に分析することは、政党政治下における大衆の政治意識の考察には不可欠の要素であるのみでなく、年令層別地域住民の支持政党別投票行動の分析によって得られるそれらの政治意識の内容や程度は、同時に推論される政治意識の地域的特色と相俟って、代議制政党政治の将来を卜する重要な鍵をなすものである。

(1) 年令層別地域住民の支持政党別政治意識

第一に、各地域の年令層別の住民が、その支持する政党を異にすることによって示す政治意識の諸様相を、当該地域の年令層別調査対象者の投票行動の分析〔後掲（資料その1）および（資料その2）参照〕に基づいて、地域別且つ支持政党別に検討すると、次のように推論することができるであろう。

(A) 各地域を通じ、またいずれの年令層においても、革新政党支持者の政治意識が、保守政党支持者のそれよりも相当程度に高いのみでなく、はるかに明確であるということ。

先ず、政治意識の最も明瞭な「政策型」投票行動をとる者についてみると、革新政党支持者（西桜島村の五〇才以上台には該当者なし〔ただし、「政策十人物型」に五〇・〇％を占める〕）にあつては、阿久根市および大隅町の四〇才台の比率（いずれも二二・二％）が、横川町の二〇才台ならびに四〇才台および南種子町の三〇才台の保守政党支持者の占める比率（二五・〇％および二七・八％）に僅かに劣る以外は、地域・年令層を問はず、保守政党支持者の場合に比較して相対的に高い比率を示していることが判る。

これを更に地域別且つ具体的にみると、(イ) 阿久根市の場合、革新政党支持者で「政策型」投票行動をとる者は、保守政党支持者の場合に比べて、二〇才台で四倍強（百分比八〇・八対一九・二―以下括弧内数字は百分比を示す）、三〇才台で二倍強（六八・五対三一・五）、四〇才台では僅かに四・三％の較差があるにすぎないが、五〇才以上台では五倍強（八三・八対一六・二）の比率を示している。(ロ) 横川町の場合、二〇才台で約三倍（七二・二対二七・八）、三〇才台で六倍（八五・八対一四・二）、四〇才台で三倍強（七二・七対二七・三）、そして五〇才以上台では九倍強（九〇・一対九・九）という驚異的な比率になっている。(ハ) 大隅町の場合、二〇才台および三〇才台では共に三倍強（七三・〇対二七・〇および七八・〇対二二・〇）、また四〇才台および五〇才以上台では共に二倍強（六七・五対三一・五および七

三・一対二六・九」という比率を示している。(二) 西桜島村の場合、二〇才台には保守政党支持者でこの型の投票行動をとる者がなく、四〇才台には革新政党を支持する者がなく、更に五〇才以上台には革新政党支持者でこの型の投票行動をとる者がいないために、これらの年齢層についての政治意識の較差を求めることは不可能であるので、両政党の支持者でこれに該当する者を見出すことのできる三〇才台のみを比較すると六倍弱(八五・〇対一五・〇)の比率になる。(ホ) 南種子町の場合、二〇才台および三〇才台では共に二倍強(六七・八対三二・二 および六四・三対三五・七)、五〇才以上台では三倍強(七七・九対二二・一)という比率を示している。なお、四〇才台には保守政党支持者でこの型の投票行動をとる者がいないために、政治意識を比較検討することはできない。

また、「政策支持」のみに徹するほどの明確な政治意識は持たないが、政党の政策と関連づけて特定候補者を支持するという、比較的に明瞭な政治意識によって投票する「政策十人物型」についてみると、保守政党支持者においては、南種子町の四〇才台の三二・二%が最高の行動比率(最低率は阿久根市二〇才台の六・〇%)であるのに対して、革新政党支持者の場合は、横川町の三〇才台および西桜島村の五〇才以上台に見るように、その最高率は五〇・〇%に達している。即ち、これら地域の革新政党支持者のうち、当該年齢層の五割にも及ぶ多数がこの型の投票行動をとることを示しているのである。

こゝに「政策十人物型」投票行動をとる者の革新政党支持者と保守政党支持者との割合を地域別且つ年齢別に比較検討すると、(イ) 阿久根市の場合、二〇才台では三倍(七八・九対二一・一)の比率であるが、三〇才台ではむしろ保守政党支持者が四・五%上回っている。しかし、四〇才台では三倍弱(七一・四対二八・六)、五〇才以上台では約三倍(七二・九対二七・一)というように、一般的には革新政党支持者が高率を占めている。(ロ) 横川町の場合、二〇才台で二倍弱(六一・五対三八・五)、三〇才台および四〇才台では共に二倍(六六・七対三三・三および六六・六対三三・四)であるが、五〇才以上台の革新政党支持者にはこの型の投票行動をとる者がいないので、この年齢層についての政治意識の比

較検討はできない。(イ) 大隅町の場合、二〇才台で四倍弱(七八・三対二一・七)、三〇才台で二倍強(七〇・三対二九・七)、四〇才台で三倍強(七五・五対二四・五)、そして五〇才以上台では二倍に近い比率(六四・五対三五・五)を示している。(ロ) 西桜島村の場合、二〇才台では両者の較差は僅少(五五・六対四四・四)であるが、五〇才以上台では四倍(八〇・〇対二〇・〇)という高率になっている。しかし、三〇才台には革新政党支持者でこの型の投票行動をとる者はなく、また四〇才台には革新政党の支持者がいないので、両者の政治意識を比較することは不可能である。(ハ) 南種子町の場合、二〇才台で三倍強(七六・〇対二四・〇)、三〇才台で一・五倍(六〇・〇対四〇・〇)という比率を示しているが、四〇才台では逆に保守政党支持者が革新政党支持者の二倍弱(六五・一対三四・九)という比率を占めている。なお、五〇才以上台には革新政党支持者でこの型の投票行動をとる者がいないので、この年令層についての両者の政治意識の較差を明かにすることはできない。

次に、以上二つの投票行動型とは異質であり、かかる投票行動型をとる者が多ければそれだけ彼等の政治意識は曖昧且つ低劣であると考えられる「地元型」および「人物十地元型」、即ち、政党の政策とは無関係に特定候補者の人物や彼と地元との関係に投票の動機を求める者について検討すると、革新政党支持者にしてこの型の投票行動をとる者は、阿久根市の四〇才台(五・六%—「地元型」のみ、以下同前—)および南種子町の二〇才台ならびに三〇才台(いずれも一六・七%)に僅かに「例外的」とい得る程度にしか見出せないのに対して、保守政党支持者においては、いずれの地域でも、また年令層を問はず、その一割ないし四割が例外なく「地元型」または「人物十地元型」投票行動をとっている。このことは、保守政党支持者のうちには、政党の政策を軸として運用される政党政治、またどの政党を政策の運用者として選定すべきかを決定するための選挙に対する認識を欠く者の相当数存在することを証明するものであって、保守政党支持者の政治意識は、革新政党支持者のそれに比べて相当に曖昧且つ低劣であるといわなければならない。

以上の実態を地域別にみると(保守政党支持者のみ)、(イ) 阿久根市の場合、二〇才台では三五・八%、「地元型」一

六・四％、「人物＋地元型」一九・四％）、三〇才台でも同じく三五・八％（「地元型」一九・四％、「人物＋地元型」一六・四％）、四〇才台で四六・五％（「地元型」三三・二％、「人物＋地元型」一四・三％）、五〇才以上台で四三・〇％（「地元型」三〇・六％、「人物＋地元型」一二・四％）であり、(ロ) 横川町の場合、二〇才台で二五・〇％（「地元型」のみ）、三〇才台および四〇才台では共に二五・〇％（いずれも「地元型」八・三％、「人物＋地元型」一六・七％）、五〇才以上台で一・一％（「地元型」のみ）を示し、(イ) 大隅町の場合、二〇才台で一〇・七％（「地元型」七・一％、「人物＋地元型」三・六％）、三〇才台で二八・二％（「地元型」九・四％、「人物＋地元型」一八・八％）、四〇才台で三二・二％（「地元型」七・二％、「人物＋地元型」二五・〇％）、五〇才以上台で三一・六％（「地元型」二二・一％、「人物＋地元型」一〇・五％）となっており、(ニ) 西桜島村の場合、二〇才台で三〇・〇％（「地元型」・「人物＋地元型」共に一五・〇％）、三〇才台で一七・六％（「人物＋地元型」のみ）、四〇才台で三七・五％（「地元型」六・二％、「人物＋地元型」三一・三％）、五〇才以上台で二二・五％（「人物＋地元型」のみ）であり、(ホ) 南種子町の場合、二〇才台で三一・六％（「地元型」一〇・五％、「人物＋地元型」二二・一％）、三〇才台で一六・七％（「地元型」五・六％、「人物＋地元型」一一・一％）、四〇才台で四三・八％（「地元型」六・三％、「人物＋地元型」三七・五％）、五〇才以上台で三九・四％（「地元型」一〇・八％、「人物＋地元型」二八・六％）となっている。これらの分析によって、前に述べた推論が誤りでないことが立証される筈である。

更に どのような動機に基づいて投票したかを判らないか忘れたという政治意識の極めて低劣と考えられる「D・K型」投票行動をとる者についてみても、殆んどどの地域において、保守政党支持者を見出すことができる（尤も、西桜島村の革新政党支持者にこの型の投票行動をとる者の異常に多いこと（ただし、四〇才台には革新政党支持者なし）は、同地域住民全般の政治意識の曖昧さを反映するものであって、これを革新政党支持者にみられる一般的傾向とすることは妥当ではない）。

これを地域別にみると、(イ) 阿久根市の場合、二〇才台で二二・〇％（革新政党支持者二・五％）以下括弧内数字は革新

政党支持者の百分比）、三〇才台で六・〇％（〇）、四〇才台で一六・〇％（〇）、五〇才台で一七・四％（〇）がこの型の投票行動をとっている。(ロ) 横川町の場合、二〇才台および三〇才台には保守・革新両政党支持者共になく、四〇才台で八・三％（〇）、五〇才台以上で五・六％（〇）を示している。(イ) 大隅町の場合、二〇才台には保守政党支持者で該当する者はなく（七・七％）、三〇才台で二一・八％（〇）、四〇才台で一〇・七％（〇）、五〇才台で一五・八％（〇）となっている。(ニ) 西桜島村の場合、この地域の政治意識が特殊な様相を示していることは前にも述べたが、二〇才台で一五・〇％（二五・〇％）、三〇才台で一・八％（三三・三％）、四〇才台で一八・八％（〇）、五〇才台以上では二五・〇％（五〇・〇％）というように、他地域住民に見出すことのできない現象―革新政党支持者の「D・K型」投票率の高いことを示している。(ホ) 南種子町の場合、二〇才台では一五・八％（〇）、三〇才台で一・一％（〇）、四〇才台で六・三％（〇）、五〇才台以上で一七・八％（〇）を占めている。

以上、地域別に保守政党支持者の年齢層別「D・K型」投票行動を分析したが、これによっても、保守政党支持者の政治意識は全般的に低調目つ不明確であることが証明されるであろう。

しかし、同時に、候補者個人の政見や人物のみを重視して、政党の政策を考慮に入れないために、政党政治の下ではむしろ政治意識の不明確さを反映する投票行動たる「人物型」をとる者が、保守政党支持者のみならず、革新政党支持者についても、横川町および西桜島村の場合をむしろ例外として、いずれの地域においても、また殆どどの年齢層にわたって見出されることを看過してはならない。このことは、保守・革新両政党の支持者について彼等の政治意識を比較するときには、既に検討したように、革新政党支持者の政治意識が相当程度高いといえることができるが、革新政党支持者自身の政治意識について考えれば、これ亦必ずしも明確であるとはいえないことを物語るものであるからである。

かかる「人物型」投票行動の実態を地域別（ただし、横川町および西桜島村には該当者がいないので除外する）にみると、(イ) 阿久根市の場合、保守・革新両政党支持者の百分比は、二〇才台では略々均衡している（五四・〇対四六・〇）

が、三〇才台では革新政党支持者が二倍強（三一・〇対六九・〇）、四〇才台では革新政党支持者がまさに四倍（二〇・〇対八〇・〇）を占め、五〇才以上台で漸く再び均衡している。(ロ) 大隅町の場合、二〇才台では保守政党支持者が三倍（七五・〇対二五・〇）を示しているが、三〇才台には革新政党支持者に該当する者なく、四〇才台では保守政党支持者が一・六倍（六三・〇対三七・〇）、五〇才以上台では革新政党支持者が一・六倍（三八・〇対六二・〇）を占めている。

(イ) 南種子町の場合、二〇才台では保守政党支持者が約一・五倍（六一・〇対三九・〇）、三〇才台でも保守政党支持者が二倍弱（六七・〇対三三・〇）となっているが、四〇才台では革新政党支持者が三・五倍（二二・〇対七八・〇）、五〇才以上台でも革新政党支持者が二・六倍（二八・〇対七二・〇）という比率を示しているのである。

(B) いずれの地域においても、また各年令層を通じて、支持政党不明者の政治意識は、革新政党支持者のそれとの対比においてはいうまでもなく、保守政党支持者のそれに比較しても相当に低劣且つ曖昧であり、彼等は、政党政治の下では最も警戒すべき大衆であるということ。

支持政党不明者の投票行動についてみると、「D・K型」において、大隅町の二〇才台（「政策型」五〇・〇%、「人物型」五〇・〇%で「D・K型」なし）を例外として、いずれの地域においても、また各年令層にわたって、保守政党支持者の「D・K型」投票行動をはるかに上回っているのみでなく、支持政党不明者の五割ないし全員が「D・K型」をとる地域や年令層が少くない。例えば、阿久根市の三〇才台や大隅町の五〇才以上台では五〇・〇%、阿久根市の四〇才台では七五・〇%、西桜島村の各年令層や南種子町の二〇才台および五〇才以上台では一〇〇・〇%が「D・K型」投票行動をとっているのである。

こゝに、「D・K型」投票行動をとる地域住民全体に対して支持政党不明者の占める割合（百分比）を地域別にみると、(イ) 阿久根市の場合、二〇才台において七七・五（保守一八・六、革新三・九）、三〇才台で八九・三（保守一〇・七、革新〇）、四〇才台で八二・四（保守一七・六、革新〇）、五〇才以上台において六九・〇（保守三一・〇、革新〇）と

なっているが、(ロ) 横川町には支持政党不明者は皆無であるので、同地域住民のうち、「D・K型」投票行動をとる者は、保守政党支持者(四〇才台および五〇才以上台)のみである。(ハ) 大隅町の場合、二〇才台では革新政党支持者のみがこの型の投票行動をとり(支持政党不明者および保守政党支持者には該当する者なし)、三〇才台および四〇才台には支持政党不明者は全然存せず、また革新政党支持者でこの型の投票行動をとる者がいないために、保守政党支持者にこれを見出し得るのみであるが、五〇才以上台においては七六・〇(保守二四・〇、革新〇)を占めている。(ニ) 西桜島村の場合、二〇才台で七一・五(保守一〇・七、革新一七・八)、三〇才台で六九・〇(保守八・一、革新二二・九)、四〇才台で八四・二(保守一五・八、革新政党支持者なし)、五〇才以上台では五七・一(保守一四・三、革新二八・六)となっている。(ホ) 南種子町の場合、二〇才台では八六・四(保守一三・六、革新〇)を占めるが、三〇才台および四〇才台には保守政党支持者のみにこの型の投票行動がみられ、しかも四〇才台には支持政党不明者そのものがない。しかし、五〇才以上台では八四・九(保守一五・一、革新〇)の高率を示している。

このように、支持政党不明者が、自己の投票動機や投票の意義を意識しない無定見な投票行動たる「D・K型」において、彼等の存在する限り、同じく「D・K型」をとる地域住民の七割ないし九割という驚くべき高率を占めるということ(ただ、西桜島村の五〇才以上台の場合は例外と考えるべきであろう)は、彼等が、政治意識において最も混迷状態にある大衆たることを表象するものであって、代議制下の政党政治が行なわれる限り、政党の独裁化への口実を与える危険性を内包する分子的存在であるというべきである。

更に、支持政党不明者は、「D・K型」以外の投票行動をとる場合であっても、その殆んどは非政策的な投票行動―「人物型」・「地元型」・「人物+地元型」等―をとり、「政策型」投票行動は極めて稀な例外としてとるにすぎないという事実(この型の投票行動をとる者は大隅町の二〇才台〔五〇・〇％〕に見出し得るのみである)を看過してはならない。こゝに支持政党不明者で非政策的投票行動をとる者を、「人物型」・「地元型」および「人物+地元型」別に、地域毎

に見ると、(イ) 阿久根市の場合、二〇才台では彼等の六六・六%がこの型の投票行動をとっているが、このうち、「人物型」と「地元型」および「人物十地元型」はそれぞれ均衡している。三〇才台では五〇・〇%を占めるが、このうち、「人物型」は僅かに一二・五%で、残り三七・五%は「地元型」という閉鎖的な動機を選択している。四〇才台では全員が「人物型」で二五・〇%を占めている。五〇才以上台では六一・六%を示しているが、このうち、「人物型」は僅かに七・七%にすぎず、五三・九%が「地元型」という近視眼的動機によっている。(ロ) 横川町の場合、前述のように支持政党不明者がいないので、検討の必要はない。(ハ) 大隅町の場合、二〇才台では五〇・〇%がこの型の投票行動をとっているが、それは全て人物本位の投票（「人物型」）であることを示している。三〇才台および四〇才台には支持政党不明者そのものが存在しないが、五〇才以上台では五〇・〇%がこの型の投票行動をとり、しかもその全部が「地元型」となっていることは注意を要する。(ニ) 西桜島村の場合、各年令層を通じて非政策的投票行動をとる者は皆無で、すべて「D・K型」とをとっていることは、同地域住民の政治意識のいかに低いかを物語る事実の一つとして重視しなければならない。(ホ) 南種子町の場合、二〇才台および五〇才以上台では、西桜島村の場合と同じく、全員が「D・K型」ととっているが、三〇才台では逆に全員が「非政策型」をとり、且つ「地元型」を選択している。なお、四〇才台には支持政党不明者そのものを見出し得ない。

要するに、政党政治や選挙に無関心な大衆が、各地域を通じて、相当広汎に存在する事實は、今後の代議制政党政治を選挙と政策を軸にして健全に発展させることによって、民主政治の運用を大衆のものたらしめようとする前途に暗影を投ずるものとして、厳に監視する必要があると考える。

地域別調査対象者の年齢別・支持政党別投票理由調 (%)

(資料その1)

地域	年齢	投票理由 政党	政策型 (1)	人物型 (2)	地元型 (3)	(1)+(2)型			(2)+(3)型			団体推薦型	D・K型	計
						(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)			
阿久根市	20才	保守	8.9	35.8	16.4	6.0	19.4	1.5	12.0	100.0 (%)				
	29才	保守	37.5	30.0	0	22.5	0	7.5	2.5					
	30才	保守	0	33.3	0	0	33.3	0	33.4					
	30才	保守	16.4	17.9	19.4	22.4	16.4	1.5	6.0					
横川町	39才	保守	35.7	39.3	0	17.9	0	7.5	0					
	40才	保守	0	12.5	37.5	0	0	0	50.0					
	40才	保守	17.9	10.7	32.2	8.9	14.3	0	16.0					
	49才	保守	22.2	44.4	5.6	22.2	0	5.6	75.0					
大隅町	50才	保守	11.6	19.8	30.6	7.4	12.4	0.8	17.4					
	50才	保守	60.0	20.0	0	20.0	0	0	0					
	50才	保守	0	7.7	53.9	0	0	0	38.4					
	20才	保守	25.0	25.0	25.0	25.0	0	0	0					
川町	29才	保守	60.0	0	0	40.0	0	0	0					
	29才	保守	8.3	41.7	8.3	25.0	16.7	0	0					
	39才	保守	50.0	0	0	50.0	0	0	0					
	40才	保守	0	25.0	0	0	16.7	0	8.3					
大町	49才	保守	66.7	0	8.3	16.7	0	0	0					
	50才	保守	0	0	11.1	27.8	0	0	5.6					
	50才	保守	11.1	44.4	0	0	0	0	0					
	20才	保守	100.0	100.0	0	0	0	0	0					
大町	20才	保守	10.7	67.9	7.1	10.7	3.6	0	0					
	29才	保守	30.7	23.1	0	38.5	0	0	7.7					
	29才	保守	50.0	50.0	0	0	0	0	0					
	30才	保守	15.6	15.6	9.4	18.8	18.8	0	21.8					
隅町	39才	保守	55.6	0	0	44.4	0	0	0					
	40才	保守	0	0	0	0	0	0	0					
	40才	保守	10.7	39.2	7.2	7.2	25.0	0	10.7					
	49才	保守	22.2	23.4	0	22.2	0	22.2	0					
大町	50才	保守	10.5	26.3	21.1	15.8	10.5	0	15.8					
	50才	保守	28.6	42.8	50.0	28.6	0	0	50.0					

西 秘 島 村	20才	保革不	守新明	0	35.0	15.0	20.0	15.0	0	15.0	100.0
	29才	保革不	守新明	50.0	0	0	25.0	0	0	25.0	"
	30才	保革不	守新明	11.8	35.3	0	23.5	17.6	0	11.8	"
	39才	保革不	守新明	66.7	0	0	0	0	0	33.3	"
	40才	保革不	守新明	0.0	0	0	0	0	0	100.0	"
	40才	保革不	守新明	12.5	25.0	6.2	6.2	31.3	0	18.8	"
	49才	保革不	守新明	0	0	0	0	0	0	0	0
	50才	保革不	守新明	0	0	0	12.5	12.5	0	25.0	100.0
	以上	保革不	守新明	16.7	33.3	0	50.0	50.0	0	50.0	"
	20才	保革不	守新明	0	0	0	0	0	0	100.0	"
南 種 子 町	20才	保革不	守新明	15.8	26.3	10.5	10.5	21.1	0	15.8	"
	29才	保革不	守新明	33.3	16.7	16.7	33.3	0	0	0	"
	30才	保革不	守新明	27.8	0	5.6	11.1	11.1	0	11.1	"
	39才	保革不	守新明	50.0	16.6	16.7	16.7	0	0	0	"
	40才	保革不	守新明	0.0	0	6.3	31.2	37.5	0	6.3	"
	49才	保革不	守新明	16.7	18.7	0	16.7	0	0	0	"
	50才	保革不	守新明	7.1	28.6	10.8	7.1	28.6	0	17.8	100.0
	以上	保革不	守新明	25.0	75.0	0	0	0	0	0	"
	20才	保革不	守新明	9.9	39.4	14.1	11.3	14.8	0.6	9.9	"
	29才	保革不	守新明	38.2	23.6	1.5	27.9	0	4.4	2.1	"
T (参 考)	30才	保革不	守新明	14.3	28.6	0	14.3	16.5	0	41.8	"
	30才	保革不	守新明	16.5	23.8	12.2	20.4	16.5	0.4	10.2	"
	39才	保革不	守新明	43.8	25.0	2.1	22.9	0	4.1	2.1	"
	40才	保革不	守新明	0	9.1	73.2	9.1	0	0	54.4	"
	40才	保革不	守新明	13.9	21.7	17.8	11.7	22.5	0	12.4	"
	49才	保革不	守新明	25.0	41.7	2.8	22.2	0	8.3	0	"
	50才	保革不	守新明	0	20.0	0	0	0	0	80.0	"
	以上	保革不	守新明	11.4	25.3	21.4	11.4	13.1	0.4	17.0	"
				40.0	35.0	47.1	20.0	0	0	5.0	"
				0	-1.7	0	0	0	0	41.2	"

※ T...全調査対象地域

地域別・年令別調査対象者の投票理由類型別政党支持比調 (%)

(資料その2)

地域	年令	投票理由	政策型 (1)	人物型 (2)	地元型 (3)	(1)+(2)型			(2)+(3)型			団体推薦型	D・K型	備考
						(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)			
阿久根市	20才以上	保守不	19.2	30.9	100.0	21.1	36.8	16.7	18.6	60.9				
	29才	守新明	80.8	26.6	0	78.9	0	83.3	3.9	36.4				
	30才	保守不	0	43.1	0	0	63.2	0	77.5	2.7				
	30才	守新明	31.5	25.7	34.1	55.6	100.0	17.4	10.7	65.0				
久根市	39才	保守不	68.5	56.4	0	44.4	0	82.6	27.2	27.2				
	40才	守新明	0	17.9	65.9	0	0	0	89.3	7.8				
	40才	保守不	44.6	13.4	85.2	28.6	100.0	0	17.6	72.2				
	49才	守新明	55.4	55.3	14.8	71.4	0	100.0	0	22.8				
横川町	20才以上	保守不	16.2	41.7	36.2	27.1	100.0	100.0	82.4	5.0				
	29才	守新明	83.8	42.1	63.8	72.9	0	0	31.0	87.7				
	30才	保守不	0	16.2	0	0	0	0	69.0	8.6				
	39才	守新明	27.8	100.0	100.0	38.5	0	0	0	61.5	38.5			
大隅町	20才以上	保守不	72.2	0	0	61.5	0	0	0	38.5				
	29才	守新明	0	0	0	33.3	100.0	0	0	85.7				
	30才	保守不	14.2	100.0	100.0	66.7	0	0	0	14.3				
	39才	守新明	85.8	0	0	0	0	0	0	80.0				
大町	40才	保守不	27.3	100.0	100.0	33.4	100.0	0	100.0	80.0				
	49才	守新明	72.7	0	0	66.6	0	0	0	20.0				
	50才以上	保守不	9.9	29.9	100.0	100.0	0	0	100.0	85.7				
	20才	守新明	90.1	0	0	0	0	0	0	9.5				
大町	29才	保守不	11.7	48.2	100.0	21.7	100.0	0	0	65.1				
	29才	守新明	32.8	16.4	0	78.3	0	0	100.0	30.2				
	30才	保守不	55.5	35.4	0	0	0	0	0	4.7				
	30才	守新明	21.9	100.0	100.0	29.7	100.0	0	100.0	76.7				
隅町	39才	保守不	78.1	0	0	70.3	0	0	0	22.3				
	40才	守新明	0	0	0	0	0	0	0	0				
	49才	保守不	32.5	53.9	100.0	24.5	100.0	0	100.0	75.7				
	50才以上	守新明	67.5	46.1	0	75.5	0	100.0	0	24.3				
町	49才	保守不	26.9	38.1	29.7	35.5	100.0	0	24.0	80.9				
	50才以上	守新明	73.1	61.9	0	64.5	0	0	76.0	18.4				
	20才	保守不	0	0	70.3	0	0	0	0	0.7				
	20才	守新明	0	0	0	0	0	0	0	0				

西	20才	保守不	字新明	0	100.0	100.0	0	44.4	100.0	0	0	10.7	80.0
	29才	保守不	字新明	100.0	0	0	0	55.6	0	0	0	17.8	16.0
	30才	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	71.5	4.0
	30才	保守不	字新明	15.0	100.0	0	0	100.0	0	0	0	8.1	81.0
桜	39才	保守不	字新明	85.0	0	0	0	0	0	0	0	22.9	14.3
	40才	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	69.0	4.7
	40才	保守不	字新明	100.0	0	0	0	0	0	0	0	15.8	0
	49才	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島	50才以上	保守不	字新明	100.0	0	0	0	0	0	0	0	84.2	5.9
	50才以上	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	14.3	88.9
	50才以上	保守不	字新明	0	0	0	0	80.0	0	0	0	28.6	8.3
	50才以上	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	57.1	2.8
村	20才	保守不	字新明	32.2	61.2	38.6	0	24.0	100.0	0	0	13.6	73.0
	29才	保守不	字新明	67.8	38.8	61.4	0	76.0	0	0	0	0	23.0
	30才	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	86.4	4.0
	30才	保守不	字新明	35.7	66.7	5.5	0	40.0	100.0	0	0	100.0	72.0
南	39才	保守不	字新明	64.3	33.3	13.7	0	60.0	0	0	0	0	24.0
	40才	保守不	字新明	0	0	81.8	0	0	0	0	0	4.0	0
	40才	保守不	字新明	100.0	21.9	100.0	0	65.1	100.0	0	0	100.0	72.7
	49才	保守不	字新明	0	0	0	0	34.9	0	0	0	0	27.3
種	50才以上	保守不	字新明	22.1	27.6	100.0	0	100.0	0	0	0	15.1	85.0
	50才以上	保守不	字新明	77.9	72.4	0	0	0	0	0	0	0	12.1
	50才以上	保守不	字新明	0	0	0	0	0	0	0	0	84.9	2.9
	50才以上	保守不	字新明	15.9	43.4	90.9	0	28.6	51.2	0	0	17.5	65.4
子	29才	保守不	字新明	60.2	25.6	9.1	0	71.4	0	0	0	7.5	31.3
	29才	保守不	字新明	23.9	31.0	0	0	0	48.8	0	0	75.0	3.3
	30才	保守不	字新明	27.3	41.7	31.0	0	38.5	100.0	0	0	15.3	71.4
	30才	保守不	字新明	72.7	41.7	3.5	0	46.2	0	0	12.5	15.3	4.8
T(参考)	39才	保守不	字新明	0	16.6	65.2	0	15.3	0	0	0	82.7	2.0
	40才	保守不	字新明	37.5	26.4	85.2	0	33.3	100.0	0	0	13.1	75.9
	49才	保守不	字新明	62.5	51.9	14.8	0	66.7	0	0	0	0	21.2
	50才以上	保守不	字新明	22.0	21.7	29.7	0	34.2	100.0	0	0	86.9	2.9
			78.0	49.4	0	0	65.8	0	0	0	27.3	86.1	
			0	12.9	70.3	0	0	0	0	0	65.7	6.4	

※T…全調査対象地域

※備考欄は各地域調査対象者の政党支持比を示す(参考資料)

(2) 支持政党別地域住民の年令層別政治意識

第二に、各地域の住民がその支持政党別に示す政治意識の種々相を、当該地域の年令層別調査対象者の投票行動の分析〔前掲（資料その1）および後掲（資料その3）参照〕を通して、地域別且つ年令層別に検討すると、次のような政治意識の地域的特色や年令層的特質を見出すことができる。

(A) 阿久根市の場合

保守政党支持者においては、中年層（三〇才台および四〇才台）の政治意識が、若年層や老年層のそれよりも高いが、革新政党支持者においては、これとは逆の傾斜を示している。

先ず保守政党支持者についてみると、「政策型」投票行動をとる者は、二〇才台では八・九％（一六・二―「政策型」をとる全保守政党支持者に対して占める百分比、以下括弧内数字は百分比を示す）であり、五〇才以上台でも一一・六％（二一・二）にすぎないが、これに対して、三〇才台では一六・四％（二九・九）、四〇才台では一七・九％（三二・七）を占めて、二〇才台の約二倍の高率を示している。そして、「政策十人物型」投票行動においても、三〇才台および四〇才台は、二〇才台および五〇才以上台をそれぞれ上回っている。即ち、二〇才台で六・〇％（一三・四）、五〇才以上台で七・四％（一六・六）を示しているのに対して、三〇才台は二二・四％（五〇・一）、四〇才台は八・九％（一九・九）となっている。しかし、「人物型」投票行動をとる者についてみると、むしろ逆の様相を呈している。即ち、二〇才台で三五・八％（四二・五）、五〇才以上台で一九・八％（二三・五）を占めているのに対して、三〇才台では一七・九％（二一・三）、四〇才台では一〇・七％（一二・七）と著しく減少しているのである。しかし、同時に、保守政党支持者に通有の特性たる地元意識は、年令層のいずれを問はず相当根強いことを物語っている。それは、「地元型」および「人物十地元型」投票行動をとる者が、二〇才台および三〇才台でそれぞれ三五・八％（二二・二）、四〇才台で四六・五％（二八

・九)、五〇才以上台で四三・〇%(二六・七)という相当高い比率を占めているという事実によって明白である。また「D・K型」投票行動をとる者についてみると、二〇才台では一二・〇%(二三・四)を示し、四〇才台に比べると僅かに四〇%の低率となっているが、三〇才台は六・〇%(一一・七)にすぎないので、三〇才台に比すれば二倍の比率となり、また五〇才以上台では一七・四%(三三・八)を示しているから、「D・K型」投票行動を分析しても、同地域の保守政党支持者は、総体的に、中年層が若年層や老年層に比して、その政治意識において高く且つ明瞭であるということが出来る。

次に革新政党支持者についてみると、「政策型」投票行動をとる者が、二〇才台では三七・五%(二四・四)、五〇才以上台では六〇・〇%(三八・六)という高率を占めているが、これに対して、三〇才台では三五・七%(二三・〇)、更に四〇才台では二二・二%(二四・〇)と漸減し、五〇才以上台の三分の一しか占めていない。そして、「政策十人物型」投票行動においても、五〇才以上台が四〇才台に対して僅かに二・二%低い(四〇才台―二二・二%(二六・九)、五〇才以上台―二〇・〇%(二四・二))のみで、二〇才台では二二・五%(二七・一)を占めているのに対して、三〇才台では一七・九%(二一・六)であるから、中年層の政治意識は、若年層および老年層のそれに比べて相対的に低いということが出来るであろう。他方、「人物型」投票行動をとる者についてみると、二〇才台で三〇・〇%(二二・四)、五〇才以上台では二〇・〇%(一五・一)を占めているのに対して、三〇才台では三九・三%(二九・三)、四〇才台では四四・四%(三三・二)というように相当に高い比率を示している。このことも右の推論を証明する重要な事実である。同時に、同地域の革新政党支持者の政治意識が一般的に明瞭でないことを反映するものである。また政治意識の特に低い大衆の陥り勝ちな「D・K型」投票行動をとる者が二〇才台に二・五%も見出されるといことは、たとえ比率は低くても、同地域の革新政党支持者のうちでも特に若年層の政治意識が明確でないことを裏書きするものと考えらるべきではなかろうか。

(B) 横川町の場合

最初に特記すべきは、他地域住民に比べて、保守・革新いずれの政党支持者も、またいずれの年齢層も、その政治意識が相当に高いのみでなく、明確に表明されているということである。このことは、同地域住民一般の政治意識の高いことを反映するものであつて、調査対象者のうちに支持政党不明者が皆無であつたという事実とも決して矛盾するものではないと考えられるのである。

しかし、かくの如く他地域住民よりも高い政治意識を有する同地域住民についても、支持政党別に彼等の投票行動を検討すると、それぞれ年齢層の相異や特色のあることを見出し得る。

先ず保守政党支持者についてみると、三〇才台の政治意識が最も低く、二〇才台のそれが最も高いということが判る。そして、これら両年齢層の中間に四〇才台および五〇才以上台が順次位置するのである。これを彼等の投票行動を分析することによって検討すると、三〇才台では「政策型」をとる者は僅かに八・三%（一二・〇）であり、更に「政策十人物型」をとる者を考慮に入れても三三・三%しか見出されないのに対して、二〇才台においては、「政策型」をとる者のみで二五・〇%（三六・〇）もあり、更に「政策十人物型」をとる者を合せると、二〇才台の半数が政党の政策または政党の政策と関連せしめて特定候補者を支持していることになる。そして、この二つの投票行動をとる四〇才台および五〇才以上台についてみると、前者は四一・七%、後者は三八・九%を示しているので、政策的投票行動をとることに、二〇才台が最も明瞭であり、四〇才台および五〇才以上台がこれに次ぎ、三〇才台が最も低迷しているといわなければならない。また非政策的投票行動を分析することによつても、右の事実を証明することができる。即ち、二〇才台では五〇%がこの型の投票行動をとるのに対して、三〇才台では六六・七%、四〇才台では五八・三%（「D・K型」八・三%を含む）、五〇才以上台においては六六・一%（「D・K型」五・六%を含む）を占めているからである。

次に革新政党支持者についてみると、年齢層による政治意識の較差は殆んどないが、敢えて述べるならば、「政策型」投票行動において一〇〇・〇%（三六・一）を示す五〇才以上台の政治意識が最も高く且つ明確であるといふべきである。

うか。しかし、二〇才台、四〇才台においても非政策的投票行動をとる者は皆無であり、「政策型」をとる以外はすべて「政策十人物型」をとるのみでなく、二〇才台では「政策型」六〇・〇％（二一・四）・「政策十人物型」四〇・〇％（三二・五）、三〇才台では「政策型」五〇・〇％（一八・四）・「政策十人物型」五〇・〇％（四〇・七）、四〇才台では「政策型」六六・七％（二四・一）・「政策十人物型」三三・三％（二六・八）を占めているのであるから、いずれの年齢層も「政策的」に投票しているというべきで、殊更に年齢層による政治意識の較差や内容の相異を強調する必要はないであろう。

(C) 大隅町の場合

政治意識の最も明確な年齢層は、保守・革新いずれの政党支持者においても、三〇才台であるということが出来る。尤も、このことは、同一政党を支持する他の年齢層と対比した場合のことであって、同じ三〇才台であっても、保守政党支持者と革新政党支持者の政治意識の内容には格段の相異があることは後に見るとおりである。これに対して、政治意識の最も低調な年齢層は両政党支持者共に四〇才台であるということになるが、この場合も、両者の政治意識には著しい較差のあることはいうまでもない。

先ず保守政党支持者についてみると、政策的投票行動をとる者は、二〇才台では二一・四％、「政策型」一〇・七％（二二・五）・「政策十人物型」一〇・七％（二〇・四）、三〇才台では三四・四％、「政策型」一五・六％（三二・八）・「政策十人物型」一八・八％（三五・八）、四〇才台では一七・九％、「政策型」一〇・七％（二二・五）・「政策十人物型」七・二％（一三・八）、五〇才台では二六・三％、「政策型」一〇・五％（二二・二）・「政策十人物型」一五・八％（三〇・一）である。しかし、純粹に政党の政策を支持して投票した者は、各年齢層を通じて一割余にすぎず、三〇才台のみが僅かに一・五割を超える状況であるから、同地域保守政党支持者の政治意識がどのようなものであるかは推論に難くない。彼等のこのような政治意識の様相は、彼等のいかに多くが非政策的な動機に基づいて投票しているかを

分析することによっても証明できる。即ち、非政策的投票行動についてみると、二〇才台では七八・六%、「人物型」六七・九%（四五・六）、「地元型」七・一%（二五・八）、「人物+地元型」三・六%（六・二）、三〇才台では四三・八%、「人物型」一五・六%（三二・八）、「地元型」九・四%（二一・〇）、「人物+地元型」一八・八%（三二・五）、四〇才台では七一・四%、「人物型」三九・二%（二六・三）、「地元型」七・二%（一六・一）、「人物+地元型」二五・〇%（四三・二）、五〇才以上台では五七・九%、「人物型」二六・三%（一七・七）、「地元型」二一・一%（四七・一）、「人物+地元型」一〇・五%（一八・一）というように、保守政党支持者の四割ないし八割が非政策的な動機に基づいて投票しているのである。次に、彼等の政治意識の様相を年令層別にみると、前述のように、政策的投票行動においては三〇才台が最高率の三四・四%を示し、他方非政策的投票行動においては最低率の四三・八%を占めているから、三〇才台の政治意識が最高であるといつてよい。しかし、同時に、「D・K型」をとる者が二一・八%もいることを考慮に入れると、彼等の政治意識も必ずしも明瞭であるとはいえないであろう。また、二〇才台では、未だ政党の政策を分析し得る段階に至らないために候補者の政見や人物そのものに投票の動機を求めている形跡がある。このことは、「政策型」をとる者が僅かに一〇・〇%にすぎないのに対して、「人物型」が六七・九%を占めていることよって理解できる。なお、このような傾向は、各地域の同年令層の保守政党支持者の投票行動に相通ずるものがある。これに対して、四〇才台および五〇才以上台は、政党の政策を理解し得ないか、または理解への熱意を欠くために政策型をとる者が少ないと思はれるが、同時に、彼等には、候補者の政見や人物よりも、地元意識に立ちあるいは候補者と地元との結びつきを重視して投票する傾向のあることを見出し得る。四〇才台三二・二%、五〇才以上台三一・六%。このような意味において、「政策型」こそ低率を示しているが、「人物型」において著しく高率を占めている二〇才台の政治意識を以て五〇才以上台のそれよりも明瞭であるといふべきであろう。

次に革新政党支持者についてみると、「政策型」投票行動をとる者は、二〇才台で三〇・七%（二二・四）、三〇才台

で五五・六% (四〇・六)、四〇才台で二二・二% (一六・一)、五〇才以上台で二八・六% (二〇・九) であり、「政策十人物型」投票行動をとる者は、二〇才台で三八・五% (二八・八)、三〇才台で四四・四% (三三・二)、四〇才台で二二・二% (一六・六)、五〇才以上台で二八・六% (二一・四) となっている。従って、全員が「政策型」または「政策十人物型」投票行動をとる三〇才台の政治意識はたしかに優れたものであるが、彼等にしてなお四四・四%の「政策十人物型」をとる者の存在することは、革新政党支持者の政治意識といえども必ずしも明確であるとはい、得ない証拠とみるであろう。次に、三〇才台以外の各年令層についてみると、政策的投票行動において、二〇才台一六九・二%、四〇才台一四四・四%、五〇才以上台一五七・二%であり、他方非政策的投票行動(すべて「人物型」)において、二〇才台一二三・一% (二五・九)、四〇才台一二三・四% (二六・二)、五〇才以上台一四二・八% (四七・九) となっているが、四〇才台には「団体推薦型」をとる者が二二・二%あり、これは、革新団体の推薦客体が必ずしも政党ではなく特定候補者たるものが一般的であるという内実に基づけば、むしろ非政策的投票行動として考えるべきであるので、四〇才台のそれは五五・六%となる。それ故に、各年令層の政治意識の高低の順位は、二〇才台、五〇才以上台そして四〇才台と判定しても差支えないであろう。

(D) 西桜島村の場合

同地域住民の政治意識の特異性を具体的にみると、革新政党支持者は各年令層(四〇才台を除く)共に、相当多くの者が「D・K型」投票行動をとっているということである。即ち、二〇才台で二五・〇% (二三・一)、三〇才台で三三・三% (三〇・七) を示し、更に五〇才以上台では五〇・〇% (四六・二) までが「D・K型」をとっていることである。他地域の革新政党支持者で「D・K型」をとる者は、政治意識の未だ不安定な段階にある二〇才台のみ見出し得るのであるから、同地域の場合はまさに特異現象といわざるを得ない。

また、四〇才台に革新政党支持者が皆無であるという事実は、後述する同年令層の保守政党支持者の投票行動と相

俟って、同地域住民の政治意識の低調性に決定的影響を与えているものと考えられる。それは、彼等が、社会的地位や市民的生活において定安し、従って政治問題や社会問題に対する関心も強く、政治意識や社会意識に確乎たる信念を持つべき年令層にあるにもかかわらず、経済生活の安定ムードに沈潜して、社会意識や政治意識をその裡に埋没させているからである。

さて、同地域住民の政治意識を支持政党別に各年令層について検討すると、保守政党支持者においては、三〇才台の政治意識が最も高く、四〇才台のそれが最も低い。そして、その中間に五〇才以上台と二〇才台が位置している。また、革新政党支持者においては、四〇才台を除く各年令層の政治意識は、二〇才台のそれが最高であり、年令層の古くなるに従って低下する傾向を示していることが判る。

これを、先ず保守政党支持者についてみると、「政策型」投票行動をとる者は、二〇才台にはなく、三〇才台で一・八%（二八・八）、四〇才台で一・五%（三〇・五）、五〇才以上台で一六・七%（四〇・七）となっている。従って、この型の投票行動の分析のみから推論すれば、彼等の政治意識は年令層の古い程高くなるように考えられる。しかし、政治意識の判定は、諸他の投票行動の分析の結果と共に総合的に行なうべきものである。かかる観点に立つて、政策的投票行動の一つである「政策十人物型」投票行動を分析すると、二〇才台では二〇・〇%（三二・二）、三〇才台では二三・五%（三七・八）、四〇才台では六・二%（九・九）、五〇才以上台では一二・五%（二〇・一）を占めているから、政策的投票行動は、結局二〇才台で二〇・〇%、三〇才台で三五・三%、四〇才台で一八・七%、五〇才以上台で二九・二%となる。従って、三〇才台の政治意識が最高であり、四〇才台のそれが最低であるということになるが、かかる推論は、その占める割合が大きければそれ程政治意識の低さの尺度となる非政策的投票行動を分析することによって裏書きされなければならない。そこで、保守政党支持者の非政策的投票行動についてみると、二〇才台で六五・〇%―「人物型」三五・〇%（二七・二）、「地元型」一五・〇%（七〇・八）、「人物十地元型」一五・〇%（一九・六）、三〇才

台で五二・九%、「人物型」三五・三%（二七・四）、「地元型」なし、「人物+地元型」一七・六%（二三・〇）、四〇才代で六二・五%、「人物型」二五・〇%（一九・五）、「地元型」六・二%（二九・二）、「人物+地元型」三一・三%（四一・〇）、五〇才以上台で四五・八%、「人物型」三三・三%（二五・九）、「地元型」なし（〇）、「人物+地元型」一二・五%（一六・四）で、五〇才以上台の政治意識が三〇才台のそれよりも高く最上位にあるように思はれ、二〇才台の政治意識が四〇才台のそれより低く最下位にあるように見えるが、更に、政治意識の低迷状態にあることを表象する投票行動たる「D・K型」を考慮に入れる必要がある。かかる見地に立つて、各年令層における「D・K型」投票行動をみると、二〇才台で二五・〇%（二一・六）、三〇才台で一・八%（一六・四）、四〇才台で一八・八%（二六・六）、五〇才以上台で二五・〇%（三五・四）を示している。従って、非政策的投票行動との関連において総合的に判断すると、二〇才台では八〇・〇%、三〇才台では六四・七%、四〇才台では八一・三%、五〇才以上台では七〇・八%が、それぞれ政治意識の不明確なものということになり、結局、三〇才台の政治意識が最高であり、以下五〇才以上台、二〇才台、四〇才台という順位になると判定してよいであろう。

次に革新政党支持者についてみると、「政策型」投票行動をとる者は、二〇才台で五〇・〇%（四二・八）、三〇才台で六六・七%（五七・一）を占めるのみで、四〇才台には、前にも述べたように、革新政党支持者は全然なく、また五〇才以上台にはこの型の投票行動をとる者を見出し得ない。従って、「政策型」投票行動のみの分析によると、三〇才台の政治意識が最も明瞭であり、次いで二〇才台・五〇才以上台の順位となるが、更に「政策+人物型」を検討すると、二〇才台では二五・〇%（三三・三）を示しているが、三〇才台には皆無であり、五〇才以上台では五〇・〇%（六六・七）がこの型の投票行動をとっている。かくて、「政策型」および「政策+人物型」投票行動を総合すると、二〇才台で七五・〇%、三〇才台で六六・七%、五〇才以上台で五〇・〇%が、それぞれ政策的投票行動をとっているといえるのであって、この点に関して検討すれば、二〇才台の政治意識が最高の段階にあり、五〇才以上台のそれが最低位にあると

いうことになる。しかし、他方非政策的投票行動を分析する必要があるが、いずれの年齢層（四〇才台を除く）にも、この型の投票行動をとる者はいない。即ち、同地域の革新政党支持者は、年齢層のいかんを問はず、特定候補者の政見や人物、地元との関係または地元意識に基づいて投票する者は皆無であることを示しているのであって、この点に関する限り、彼等の政治意識は極めて明白であり、横川町の革新政党支持者の政治意識に匹敵するとも考えられるが、反面、既に分析したように、「D・K型」投票行動をとる者が各年齢層（四〇才台を除く）に見出される（二五%～五〇・〇%）ことは、同じく革新政党支持者であっても、政治意識の明瞭なものと低迷している者とが混在していることを反映しているのである。彼等の政治意識は不安定であるのみでなく、複雑であるとしなければならぬ理由も亦こゝにあるのである。

(E) 南種子町の場合

一般的には、保守・革新のいずれの政党支持者においても、またいずれの年齢層であっても、政治意識は低調且つ閉鎖的であるということが出来るが、これは同地域の地理的環境によるところが大きいのと思はれる（註―この点については、前掲拙稿「まえがき」〔四〇頁―四二頁〕参照）。即ち、このような地理的環境によって、地域住民の政治的無関心や地元意識が培養されたとも考えることができるのである。

次に、年齢層別に政治意識を検討すると、保守・革新のいずれの政党支持者においても、三〇才台が最高であり、五〇才以上台が最低を示している。そして、その中間に二〇才台と四〇才台とが位置しているが、特に、五〇才以上台の革新政党支持者の場合は、一（西桜島村の同年令層の同党支持者に「D・K型」投票行動をとる者が多い〔五割〕）ためにその政治意識を県内最低とせざるを得なかったが）―「政策型」投票行動において県内最低の比率を示していることに注意すべきである。

更に、支持政党別に検討すると、先ず保守政党支持者においては、「政策型」投票行動をとる者は、二〇才台では一五・八%（三一・二）、三〇才台では二七・八%（五四・八）を示しているが、四〇才台にはこの型の投票行動をとる者はい

ないし、また五〇才以上台では七・一％（二四・〇）しか占めていない。従って、この型の投票行動のみについていえば、四〇才台の政治意識が最低であるということになるが、更に「政策十人物型」についてみると、二〇才台で一〇・五％（二七・五）、三〇才台で一・一％（一八・五）、四〇才台で三一・二％（五二・一）、五〇才以上台で七・一％（一一・二）が、それぞれこの型の投票行動をとるので、政策的投票行動をとる者は、結局、二〇才台で二六・三％、三〇才台で三八・九％、四〇才台で三一・二％、五〇才以上台で一四・二％となる。従って、政治意識の最も明確な年齢層は三〇才台であり、次いで二〇才台であるといえることができる。しかし、四〇才台と五〇才以上台の政治意識の優劣をどのように判断するかは確かに問題である。それは、「政策型」と「政策十人物型」とを綜合した比率においては、四〇才台が三一・二％を占めるのに対して、五〇才以上台は僅かに一四・二％を示しているにすぎないから、四〇才台の政治意識に優位を認めるべきであるという見解に対して、四〇才台の占める三一・二％はすべて「政策十人物型」であって「政策型」をとる者は皆無であるが、五〇才以上台には、たとえ占める比率は小さくても（七・一％）、政治意識の最も明瞭なものが存在しているのであるから、五〇才以上台の政治意識に優位を認めるべきであるという立場もあり得るからである。しかし、五〇才以上台の占める「政策型」は「政策十人物型」と共に僅少であるのに対して、四〇才台の占めている「政策十人物型」は、同年令層の投票行動全体の三割以上を占めるのであるから、「政策十人物型」投票行動の性質とも相俟って、四〇才台の政治意識を五〇才以上台のそれよりも上位におくべきであろう。しかし、以上の検討によって政治意識の様相についての検討が成就したのではなく、更に非政策的投票行動を分析して、総合的に検討する必要がある。そこで、これについてみると、二〇才台では五七・九％、「人物型」二六・六％（二四・六）、「地元型」一〇・五％（三一・六）、「人物十地元型」二一・一％（一一・三）、三〇才台では五〇・〇％、「人物型」三三・三％（三一・二）、「地元型」五・六％（一六・九）、「人物十地元型」一一・一％（二一・五）、四〇才台では六二・五％、「人物型」一八・七％（一七・六）、「地元型」六・三％（一九・〇）、「人物十地元型」三七・五％（三八・一）、五〇才以上台で

は六八・〇％、「人物型」二八・六％(二六・六)・「地元型」一〇・八％(三二・五)・「人物+地元型」二八・六％(二九・一)となっているので、非政策的投票行動をとる者の最も多い三〇才台の政治意識が最高であり、以下二〇才台、四〇才台、五〇才以上台の順位となることは否めない事実である。なお、政治意識の閉鎖性の強いことは、「地元型」および「人物+地元型」投票行動をとる者が、二〇才台で三一・六％、三〇才台で一六・七％(二〇才台および三〇才台の革新政党支持者と同率で、同地域中最低比率)、四〇才台で四三・八％、五〇才台で三九・四％という高率を示していることから証明できる。

次に革新政党支持者についてみると、政策的投票行動をとる者は、二〇才台で六六・六％、「政策型」三三・三％(二六・七)・「政策+人物型」三三・三％(四五・二)、三〇才台でも同じく六六・七％、「政策型」五〇・〇％(四〇・〇)・「政策+人物型」一六・七％(二二・六)、四〇才台において三三・四％、「政策型」一六・七％(二三・三)・「政策+人物型」一六・七％(二二・六)、五〇才台で二五・〇％、「政策型」のみ二五・五％(二〇・〇)で「政策+人物型」なしであって、政策的投票行動においては二〇才台と三〇才台の間には較差はないが、前者は、「政策型」投票行動において三三・三％、後者は五〇・〇％を占めているので、三〇才台の政治意識に優位を認めるべきであろう。なお、二〇才台および四〇才台においては、「政策型」と「政策+人物型」とが相半ばしているが、三〇才台においては、前者が後者をはるかに凌駕し、特に五〇才台においては、政策的投票行動をとる者こそ最下位であるが、彼等においては「政策+人物型」をとる者は他の年令層と異って皆無である。このことは、政策的行動をとる者である限り、五〇才台はすべて明瞭な政治意識を有するものであることを物語るものである。しかし、反面、革新政党支持者で非政策的投票行動をとる者が、二〇才台で三三・四％、「人物型」一六・七％(九・六)・「地元型」一六・七％(五〇・〇)・「人物+地元型」なし、三〇才台で三三・三％、「人物型」一六・六％(九・四)・「地元型」一六・七％(五〇・〇)・「人物+地元型」なし、四〇才台で六六・六％、「人物型」のみ(三八・一)、五〇才以上台で七五・〇％、「人物型」のみ

七五・〇％(四二・九)を占めているのであって、二〇才台および三〇才台では政策的投票行動をとる者の五割にすぎないが、四〇才台では二倍、更に五〇才以上台では三倍の多きに及んでいる。このことは、彼等の政治意識の低劣さを裏書きするものである、と同時に、二〇才台および三〇才台に「地元型」投票行動をとる者の見出されることは、比較的に若年層の革新政党支持者にすら近視眼的な地元意識が根強く存在していることを反映しているものであって、かかる傾向は、能う限り近き将来に払拭されなければ、政党政治の健全な発展を期待することはできないであろう。

地域別調査対象者の支持政党別・年令別・投票理由類型別政党支持比調(%)

(資料その3)

地域	政党	投票理由 年令	政 策 型		人 物 型		地 元 型		(1) + (2) 型		(2) + (3) 型		D・K 型	
			(1)	(1)	(2)	(2)	(3)	(3)	(1)	(1)	(2)	(2)	(3)	(3)
阿久根市	保守	20才～29才	16.2	42.5	16.6	13.4	31.0	23.4						
		30才～39才	29.9	21.3	19.7	50.1	26.2	11.7						
		40才～49才	32.7	12.7	32.7	19.9	22.9	31.1						
	革新	50才以上	21.2	23.5	31.0	16.6	19.9	33.8						
		20才～29才	24.0	22.4	0	27.1	0	100.0						
		30才～39才	23.0	29.3	0	21.6	0	0						
横川	保守	40才～49才	14.0	33.2	0	26.9	0	0						
		50才以上	38.6	15.1	0	24.2	0	0						
		20才～29才	36.6	18.4	47.4	26.5	0	0						
川	保守	30才～39才	12.0	30.6	15.8	26.5	0	0						
		40才～49才	36.0	18.4	15.8	17.6	0	59.7						
		50才以上	16.0	32.6	21.0	29.4	0	40.3						
川	革新	20才～29才	21.4	0	0	32.5	0	0						
		30才～39才	18.4	0	0	40.7	0	0						

町	新	40才～49才	24.1	0	0	26.8	0	0	0
		50才以上	36.1	0	0	0	0	0	0
大隅町	保守	20才～29才	22.5	45.6	15.8	20.4	6.2	0	0
		30才～39才	32.8	10.6	21.0	35.8	32.5	43.2	45.1
	40才～49才	22.5	26.3	16.1	13.8	43.2	18.1	22.2	
	50才以上	22.2	17.7	47.1	30.1	30.1	0	32.7	
	新	20才～29才	22.4	25.9	0	28.8	0	100.0	0
西桜島村	保守	30才～39才	40.6	0	0	33.2	0	0	0
		40才～49才	16.1	26.2	0	16.6	0	0	0
	50才以上	20.9	47.9	0	21.4	0	0	0	
	新	20才～29才	0	27.2	70.8	32.2	19.6	21.6	
	30才～39才	28.8	27.4	0	37.8	23.0	16.4	0	
南種子町	保守	40才～49才	30.5	19.5	29.2	9.9	41.0	26.6	
		50才以上	40.7	25.9	0	20.1	16.4	35.4	
	新	20才～29才	42.8	0	0	33.3	0	23.1	
南種子町	保守	30才～39才	57.1	0	0	0	0	30.7	
		40才～49才	0	0	0	0	0	0	
	50才以上	0	0	0	66.7	0	46.2		
	新	20才～29才	31.2	24.6	31.6	17.5	11.3	31.0	
	30才～39才	54.8	31.2	16.9	18.5	21.5	21.8		
南種子町	保守	40才～49才	0	17.6	19.0	52.1	38.1	12.3	
		50才以上	14.0	26.6	32.5	11.2	29.1	34.9	
	新	20才～29才	26.7	9.6	50.0	45.2	0	0	
	30才～39才	40.0	9.4	50.0	22.6	0	0		
	50才以上	13.3	38.1	0	22.6	0	0		
新	50才以上	20.0	42.9	0	9.6	0	0		

※「団体推薦型」は除外した

(ハ)の頁終

一九六六・八・三十一